

下関市立大学広報



海峡の英知。未来へそして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2014年7月1日 第73号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>

平成26年度 第53回入学式

教授 木村 健二
(学部長)

4月4日(金)、第53回入学式が本学体育館メインアリーナで開催された。今年度新入学生は、学部学生542名、学部留学生11名、編入学生22名、大学院生6名、合計581名であり、このほかに交換留学生7名、外国人科目等履修生5名が半年ないし1年間在学する。日本人学生の出身地の内訳は、中国・四国・九州など西日本を中心に、全国各地におよんでおり、自宅外通学者は約75%に達する。

入学式で吉津直樹学長は、心に留めておいて欲しいこととして、第一に多くの土地を、とりわけ地理的歴史的に興味深い下関を歩いて学んで欲しいということ、第二に学生同士や教員や書物を通じて、人との出会いを大切にしたいこと、第三に現実の社会現象を他人事ではなく自分の問題として考えて欲しいことの三点をあげ、新入生へのメッセージとされた。

本学の桜は年々成長して美しい花を咲かせており、今年は満開からややたった中での入学式であったが、近年にない数の新入学生を見、キャンパスは活気にあふれていたように思う。入学式後の保護者会にも450名を超える方々が出席され、大学の現状や新入生への注意事項を熱心に聞いてくださった。卒業までの4年間が実り多いものになるよう、大学側も精一杯の支援をしていきたいと考えている。



経済学部代表 原谷美里さん



公共マネジメント学科新入生研修(公共マネジメント合宿)

公共マネジメント学科の新入生研修が行われました

准教授 足立 俊輔

公共マネジメント学科の1年生(74人)を対象に、4月6日から、「下関市立青年の家」にて1泊2日の新入生研修が行われました。今回の研修は、これまで主体的に行動していた4年生が3年生(5名)と2年生(9名)に大きく役割を引き継ぐ形で、オリエンテーションの企画が進められました。3年生と2年生は、最初は戸惑いながら企画を進めていたものの、馴れてくるにつれ、優しく丁寧に1年生に接するようになり、「上級生」らしい姿に変わっていったのが印象的でした。

今年度も教員主催の研修企画が行われ、「土壌汚染地の処理問題」というテーマでグループ討論を行いました。初日の夜は、途中参加の4年生を含む上級生や教職員と交流会を行い、シラバスや大学生活などの相談で話が盛り上がりしました。

今回の研修で、上級生はリーダーシップを発揮する機会が与えられ、また、1年生は大学の仲間づくりのきっかけになったことと思われます。

公共マネジメント合宿を終えて

公共マネジメント学科3年 佐藤 陽一(帝京大学可児高等学校出身)

4月6日、7日の二日間、公共マネジメント合宿を先生方や大学職員の方のご協力のもと開催しました。公共マネジメント学科では、毎年4月上旬に新入生を対象として合宿を行っています。この合宿では、2・3年生が企画運営を行う学生企画がメインとなっており、この日の為に春休み中から準備を進めてきました。

4回目を迎えた今年は、企画のマンネリ化を防ぐため、これまでの企画を見直し、いくつか新しいものを取り入れました。企画段階では、不安もありましたが、本番を迎えると2・3年生が新入生と一緒にあって、楽しみながら進めることができました。私は3年生として合宿に参加しましたが、これほどまでに新入生と上級生が一体となった合宿は初めてだと思います。

最後に、この合宿にご協力いただいた皆様に心から御礼を申し上げます。



新任挨拶

着任のご挨拶

准教授 秋山 淳



みなさん、はじめまして。本年度より、基礎・教養科目で中国語を担当することになりました秋山淳（あきやま まこと）といたします。よろしくお願いいたします。本学では中国語の履修を希望する学生が多いので、彼らが継続して、自律的に中国語の学習を行えるように、強い動機付けが与えられるような授業ができればと考えています。私の専門は、中国語学で、現在は、中国語母語話者が物事をどのように捉えて、記号化（言語化）しているのかを明らかにする研究に取り組んでおります。これは、文法は規則ではなく、母語話者の物事の捉え方を反映させたものであるという認知言語学という理論に基づく研究です。この研究を通して得られた成果を、中国語の授業にうまく還元できるようにしたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

教職課程の担当者として、 成人教育研究者として

准教授 天野 かおり



本年4月に着任いたしました、天野かおりと申します。本学の教職課程を担当いたします。研究面では、成人教育、生涯学習、社会教育を主な領域といたしております。

周知のとおり近年の教職課程を取り巻く環境は厳しく、学部における教員養成の改善が求められております。「教職課程の質保証」という名目のもとに、学生の教員就職率等の情報の公表が迫られることは必至の情勢です。団塊の世代の大量退職による一時的な微増はあっても、長期的には少子化を背景として教員採用数は漸減を免れず、学生にとって採用選考試験を突破することは容易ではありません。教員志望の学生に対する十分なサポート体制を整えるべく努める所存です。

教職課程に携わっておりますと、学校教育を生涯学習の観点から構想しなおすとか、社会教育と架橋させることに研究関心をいっそう強く抱かれます。そうした探究を成人の学習支援をめぐる示唆へと結実させたく考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

再会、下関市立大学

特任教員 郝 靚



ダージャーハオ！初めまして。中国の青島大学日本語学部からまいりました郝靚（ハオ・リャン）と申します。このたび下関市立大学の一年任期の特任教員として、中国語の授業を担当することになりました。

私が下関に来るのは今回で3回目です。関門海峡を渡って、桜が満開の下関市に、下関市立大学に着任し、非常に懐かしく存じます。また、私の大学時代の先生方に、青島大学でお会いした「老朋友」（昔からの友人）に再会でき、非常に嬉しく存じます。私の専門は日本語教育です。この一年、日本に滞在することにより、日本語や日本の文化、社会への理解をより一層深めることができると思います。

外国語を学習するとき、勇気を出して話すことが非常に大事だと思います。同じ漢字圏である学生の皆さんにとって中国語は決して難しくないと思います。学生の皆さん、ぜひ私と一緒に中国語の学習を通して、中国語を楽しく身につけましょう。中国人と自然に日常会話ができるように頑張りましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

地域の継続的な発展のために

特任教員 藤谷 岳



地域貢献担当の特任教員として2014年4月に着任しました。地域共創センターを中心とした本学の地域連携に関する様々な業務を担うほか、一部の講義や実習（フィールドワーク補助）も担当します。

専門は地域環境経済論と市民参加論です。地域の人が中心となって、地域の環境・資源と資金を最大限に活用し、継続的な地域内経済循環を生み出すことで地域を元気にしていく。そのような仕組みをどのように作ってあげればよいのかということについて、国内外の事例に学びながら研究を進めています。

本学の教職員や学生さんの中には、従来から積極的に地域活動をしていらっしゃる方がたくさんいらっしゃると聞いています。こうした活動とも連携・協力しながら、本学の「地域貢献」が内実ともによりいっそう充実したものになるよう、尽力する所存です。教職員、学生、そして、地域のみなさまからの、忌憚のないご意見・ご提案をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

下関の「地域の力」を学ぶ

講師 松本 貴文



本年4月に着任いたしました松本貴文と申します。まちづくり論、公共マネジメント実習、公共マネジメント特講などの授業を担当させていただきます。これまで過疎地域における地域社会の暮らしと、それにあったまちづくりの方法についての研究を専門としてきました。これからは、市民農園や観光など、都市と農村の垣根を越えた新しいまちづくりの動きまで視野を広げていきたいと考えています。

下関市は山口県一の人口を有する都市です。同時に、自治体としては農山漁村地域までを広く含んでいます。その中で多様なまちづくり活動が行われ、それぞれに魅力と課題を抱えているのではないかと思います。こうした事例から皆さんとともに学び、「地域の力」を再発見してゆくことで、少しでもその課題解決に貢献できればと思っています。地域で学ぶ体験は、皆さんにとっても、社会や自分の生き方を考える力を与えてくれる機会になるはず。一緒にフィールドを歩くのを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

世界とのつながり

教授 水野 祥子



本年4月より経済学科に着任しました水野祥子と申します。世界経済史と西洋史概論、演習科目を担当いたします。専門はイギリス帝国史で、最近特に開発と環境の問題に関心をもっております。

グローバル化が進展する現代社会では、国際的な視野に立って物事を判断する人材が求められています。このような人材を育成するためには、異なる社会や文化のあり方を理解し、対応する力とともに、自分と世界をつなげる視点をもつことが必要です。学生には世界中でどのような問題が生じ、いかなる関係性が構築されてきたかを、長期のタイムスパンで学ぶことによって、国際社会への理解を深めてほしいと思っています。日本と世界との歴史的関係を考える上で重要なこの下関の地で、学生が世界に目を向け、自ら学ぶ力を高められるよう手助けしたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

キャリア教育の可能性を 探究するにあたって

特任教員 森山 智彦



4月からキャリア教育担当の特任教員として赴任しました森山と申します。歴史ある下関市立大学にお迎え頂き、非常に光栄に感じています。

キャリア教育担当の教員は、本学においても新しいポストですので、試行錯誤を繰り返しながら業務を進めていくことになると思いますが、私の専門（雇用・労働問題）を活かし、皆様に貢献していきたいと考えています。現在の日本の労働市場の状況を鑑みますと、将来が不確実で予測し難い社会になっています。ですので、これから社会に出て行く若者は、様々な人生の岐路においてキャリアの軌道修正が迫られることになります。そのため、単なる就職活動対策に終始するのではなく、キャリアを自ら主体的に考える力を育成することを目指しています。

このような教育を進める上で、個人的に大切だと考えているのは「雑談」です。雑談の中に大人と対等な目線で話をしたり自分自身の長所や課題を見つめ直す要素が多く含まれているからです。一人でも多くの学生と他愛も無いことを話しながら、お互いに成長できれば本望です。どうぞよろしくお願ひいたします。

特待生表彰式

5月16日（金）、本館Ⅱ棟5階中会議室において、平成26年度特待生表彰式が行われました。

下関市立大学では、規程に定められた修得単位数を取得し、かつ学力が優秀な学部学生を特待生として認定し、授業料半額免除の適用や図書の購入など修学のための費用に充てることができる奨学金を支給しています。今年度は2・3・4年各5名、留学生2名の計17名が特待生として認定されました。

初めて認定された学生（2年生）は、「授業を1回も休まず出席し、アルバイトも頑張りました。1年間頑張った結果を特待生として評価してもらい、非常にうれしい。」や「学生生活を通して、将来の人生や就職についてしっかり考えていきたい。」など、喜びや今後の抱負を語ってくれました。



平岡教授が地理学会賞などトリプル受賞しました

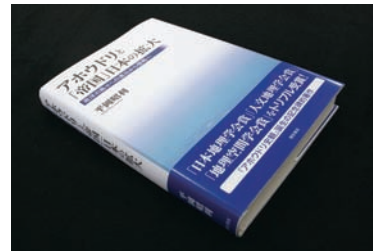
本学の平岡昭利教授が執筆し、2012年に刊行された『アホドリと「帝国」日本の拡大—南洋の島々への進出から侵略へ』（明石書店）が、「日本地理学会賞」「人文地理学会賞」「地理空間学会賞」の三つの賞を受賞しました。全国学会のトリプル受賞は初めてのことで、30に及ぶ新聞・雑誌などで紹介・論評されたとのことです。

近代における日本の領土は、太平洋に南へ東へと乗り出し、新たな無人島を獲得していった人々の行為により拡大が図られていきました。同書では、その背景にはアホドリ捕獲による経済利益を求める行動が重要な動機であったと、新たな視点から近代日本の歩みが論じられています。

平岡教授がこの題材を研究することとなったきっかけは、博士課程の研究で南大東島を訪れたときに感じたひとつの疑問だそうです。その疑問とは、南大東島は八丈島から来た人々が開拓したと言われていますが、なぜわざわざ1200キロの海を越えて、断崖絶壁のあるこの島に上陸したのかということです。それから40年、まとまった記録や資料は存在せず、先行研究もない状態で、地理学的手法によるフィールドワークや文献調査を根気強く積み重ね、その疑問の解決をはかっています。

同書は4部で構成されており、第Ⅰ部では、明治以降日本人は、高値で取引されるアホドリの羽毛を求めて鳥島などの無人島に進出していったこと、第Ⅱ部では、北西ハワイ諸島にまで進出して、グアノ（鳥のフンによる肥料）を求めて太平洋に進出していたアメリカと国際問題を引き起こしたこと、第Ⅲ部では、無人島進出の目的がグアノやリン鉱を求める方向に転換し、企業行動としての性格を帯びることになったこと、第Ⅳ部では、グアノやリン鉱運搬のための大型汽船が必要となって、ますます企業の資本投下がなされるようになり、リン鉱の軍事的利用とあいまって南洋諸島への武力進出に至ったことが論じられています。

また、近く英語版と新書版も刊行される予定とのことです。興味のある方は、是非ご一読ください。



市大の魅力をココカラ発信!!

学生広報委員会委員長 経済学科3年 内山 聡一郎（早稲高等学校出身）

私たち学生広報委員会の活動はその名の通り、下関市立大学の情報を報せることであり、そのために様々な広報の企画を行っています。夏のオープンキャンパスでは、高校生の皆さんに本学の魅力を少しでも多く伝えることを目標に様々な企画を準備し盛り上げていきます。ちなみに昨年は、学生ポスターとAR動画を企画し好評を博しました。その他、学生広報誌「ココカラ.com」では、大学生の日常や教授との対談などの情報を提供しています。また、在学生に対しても、本学のことをより一層知ってもらおうと、学内向けの広報誌の作成にも取り組んでいます。私たち学生広報委員は少人数ではありますが、各委員が協力し合い本学の魅力を十分に広報できればと思います。

これからも様々な広報活動を行うことで、下関市立大学の魅力を学内外に積極的に発信していきます。



退任挨拶



下関市立大学での6年間を振り返って 浅野 雅樹

私と同じ石川県金沢市出身の詩人室生犀星の抒情詩に「ふるさは遠きにありて思ふもの」というフレーズがあります。遠方から、改めて下関のことを振り返ってみると、様々な思い出が蘇ってきます。丁度6年前、私はそれまで訪れたこともない山口県下関の地に移り住み、下関市立大学に赴任させていただきましたが、今では下関が第二の故郷となりました。海峡の街・下関は独特の歴史と文化を有する都市でした。ただ、在任時は日々何かと慌ただしく過ごしてしまい、その文化を十分に堪能できなかったことが悔やまれます。下関市立大学は小規模校ながら質実剛健、自由、地道といった校風と勤勉な学生諸君により公立大学としての歴史を刻んできた名門校であったと実感しております。

私自身は6年間、基礎教養科目の中国語教員として勤務をいたしました。本学は私にとっての初任校でした。教育・研究を中心に大学教員としての基礎を築かせてもらいました。北京大学への短期研修引率、中国語特任教員の先生方との交流、準硬式野球部の全国大会出場、中国語スピーチコンテスト、国際インターンシップの青島への視察、下関市民の外国語状況を調査した共同研究、台湾国立聯合大学への訪問、市民講座における市民の方々との交流など枚挙にいとまがありませんが、いずれも得難い大変貴重な経験となりました。

私自身は6年間、基礎教養科目の中国語教員として勤務をいたしました。本学は私にとっての初任校でした。教育・研究を中心に大学教員としての基礎を築かせてもらいました。北京大学への短期研修引率、中国語特任教員の先生方との交流、準硬式野球部の全国大会出場、中国語スピーチコンテスト、国際インターンシップの青島への視察、下関市民の外国語状況を調査した共同研究、台湾国立聯合大学への訪問、市民講座における市民の方々との交流など枚挙にいとまがありませんが、いずれも得難い大変貴重な経験となりました。

私は2014年3月末日付で下関市立大学を辞し、4月より新しい生活を始めております。勤務先は東京都心ですが、住まいは田畑が一面に広がる房総半島の中央部に転居いたしました。アクアラインで東京湾を横断する機会がございましたら是非お立ち寄りください。

お世話になりました下関市立大学教職員の皆様方の御厚意、身に沁みて感佩しています。深く感謝の意を申し上げます。



愛おしき小さな学舎

奥野 佐矢子

下関市立大学は、私にとって大学教員生活をスタートさせた場所でした。経済学部だけの単科大学。ここには多様な専門性を持った個性豊かな先生たちがおられ、自分の研究とは異なる他領域の専門家とごく近しく交流することが可能でした。

教員控え室で、あるいは学内業務などをご一緒しながら、自分とは専門の異なる先生方の研究のお話をうかがうことを、私はこよなく愛しておりました。また教職課程で私が出会ってきた学生たちはみな、教員という夢に向かって生き生きと頑張っていました。ある者は採用試験の高いハードルを突破し、あきらめなければ夢は叶うことを身をもって示してくれましたし、卒業後すぐに教員になる道を選ばなかった者も、自らの専門の勉強と教職との両立を果たし、教員免許をもって胸を張って卒業していきました。

教員控え室で、あるいは学内業務などをご一緒しながら、自分とは専門の異なる先生方の研究のお話をうかがうことを、私はこよなく愛しておりました。また教職課程で私が出会ってきた学生たちはみな、教員という夢に向かって生き生きと頑張っていました。ある者は採用試験の高いハードルを突破し、あきらめなければ夢は叶うことを身をもって示してくれましたし、卒業後すぐに教員になる道を選ばなかった者も、自らの専門の勉強と教職との両立を果たし、教員免許をもって胸を張って卒業していきました。

私自身は複数の学部を擁した総合大学にて学んできた身ですが、ここには大規模校にはない良さがたくさんありました。愛おしき小さな学舎。この場所で教員として教え、ともに学べた幸運に感謝します。ありがとうございました。



意欲だけあっても仕方ありません

高田 実

「人に志あり」。私の座右の銘です。卒業生には、決まってこの言葉を贈ることにしています。大学時代、大島清の同名の書を読んでから、こだわっている言葉です。

常に志を持って生きようと心掛けてきたつもりですが、努力を継続できず、いつも中途半端に終わってしまいました。恩師は、そんな私の性格をよく見抜いており、「意欲だけあっても仕方ありません」と叱責されました。

下関に来る時もそれなりの志をもっていたつもりですが、またもや最後までまっとうすることができませんでした。人とはなかなか変わらないもので、同じまちがいばかりしてかします。失われた時の重みを感じつつ、恩師の言葉を噛みしめているところです。

ただ、それでも、もう一度、志を高くもって、自らの生を純粋に追求してみたい。自分らしく。そんな思いを強くしています。

5年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。



一去十三年

武井 満幹

2002年10月から11年半、足かけで言うと13年、お世話になりました。自分の勝手に市大を離れることになったのですが、やはり寂しさがあります。また市大から見える響灘と対岸の北九州の景色が好きでしたので、それも見ることができなくなり残念に思います。

あらゆることに要領が悪く、先生方や事務職員の方々には迷惑をかけてばかりでした。それに私は本学への貢献度が限りなくゼロに近かったと思います。自分としてはできることを一生懸命やっていたつもりでしたが、それは単なる自己満足でしかなく、ほかの先生方が私の何十倍、何百倍やっておられるのを見るたび、自分の身のふがいなさに心の中は忸怩たる思いでいっぱいでした。

市大の先生方、事務職員の方々、学生さん、中国語非常勤の先生方、公開講座に足をお運びいただいた市民の方々、交流校である青島大学、北京大学の先生方、すべての方に感謝申し上げます。



臨別感言

王 暉

春が去り、また春がやってきました。桜の花が散り、また桜の花が咲く季節になりました。約一年前に、下関市立大学へ中国語特任教員として赴任してきましたが、その一年という任期も終了しました。

別れに際し、多くの感慨深さと名残惜しさを感じています。この一年、先生方、職員の方々の勤勉さ、誠実さ、仕事に一生懸命に打ち込む姿、学生の真面目に努力する姿は私に深い印象を与えました。大学が我々に良好な教育、研究の環境やサービスを提供していただいたおかげで、順調に教学の任務を完了することができました。心から感謝の意を表したいと思います。

最後に、下関市立大学が前途洋々で、下関市立大学と青島大学の友情が末永く続くことを心から祈ります。

退任教員紹介

- 吉弘 憲介氏(平成23年4月～平成26年3月)
専門分野である財政学を中心に、専門教育にご尽力いただきました。
- 徐 剛氏(平成25年4月～平成26年3月)
北京大学からの特任教員として、中国語教育にご尽力いただきました。
- 朴 成日氏(平成25年10月～平成26年3月)
青島大学からの客員研究員として、研究活動にご尽力いただきました。
- 心より感謝申し上げますとともに、皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

第49回卒業式が行われました

2014年3月25日(火)、第49回卒業式が体育館メインアリーナで開催されました。学生歌「青潮ゆたかに」斉唱の後、経済学科225名、国際商学科230名、大学院生4名の計459名が、学位記を授与されました。

中尾友昭下関市長の祝辞、吉津直樹学長の告辞に引き続いて、今年度は国際商学科の谷口優衣さんに優秀赤間賞が学長より授与されました。テーマは、「近代イギリスにおけるマッドハウスの運営と役割」であり、18世紀末から19世紀にかけてイギリスで誕生・発展したマッドハウス(私立収容所)と公立収容所の分業関係の歴史を整理した論文となっています。

「出発(たびだち)のことば」は、学部総代の宮本顕嘉さんと、学部留学生総代の段娟娟さん、そして大学院総代の李培金さんが務め、それぞれ将来への力強い決意と感謝の気持ちを述べました。最後に卒業生より記念品が贈呈され、吹奏楽部の演奏で式は締めくくられました。

式終了後は下関グランドホテルで卒業生や教員が参加して、にぎやかに卒業記念パーティーが開催されました。



学部総代 宮本顕嘉さん

「国際共同研究シンポジウム in 下関市大」の報告

准教授 山川 俊和

2014年3月22日(土)、東義大学校と本学の共催による国際共同研究シンポジウムが「環境・資源エネルギー経済」を共通テーマで開催された。東義大学校から、「Climate Change, Urbanization and Sustaining the Resiliency of Environmental and Socio-Economic Development」(イム・ドンスン教授)と「グローバルマーケットにおける自動車部品の調達物流の特徴に関する一考察」(グ・ギョンモ副教授)、本学から、「日本における地域からのエネルギー転換の現状と課題」(山川・吉弘・水谷)という研究報告があった。報告を受けたパネル討論では、主として日韓の環境・エネルギー政策の動向と評価について、制度の運用や調査地域の実態を含め、大変活発な議論が交わされた。山川は前回の釜山開催から引き続きの参加であったが、内容の一層の充実を実感した。本企画の成功にご尽力いただいた両学の関係各位に、改めて厚く御礼を申し上げる。



ふく資料室フグシンポジウム

教授 土屋 敏夫(地域共創センター長)

2014年3月16日(日)、下関市立大学本館I-206教室で「第5回ふく資料室フグシンポジウム」を開催しました。「マリン・エコラベル・ジャパンの取り組みと漁業資源」をテーマにした本シンポジウムでは、一般社団法人大日本水産会より木上正士氏、西村雅志氏にご参加いただき、「マリン・エコラベル・ジャパンー持続的漁業の普及を目指して」と題してご講演をいただきました。ご講演では、マリンエコラベルの制度や普及状況など、実例を交えて分かりやすく説明していただきました。引き続き、フロアを交えたディスカッションを行い、国際フェアトレード認証ラベルなどの認証制度に関する意見交換が行われました。地場産品のブランド化など、下関の地域課題にも深い関係があるラベル認証制度です。今後とも制度の動向に注目していきたいと考えています。



ゴーヤとアサガオを植えました

エコキャンパス推進委員会では、毎年5月中旬から下旬にかけて、緑のカーテンの育成を目指してゴーヤを植えています。今年も、アサガオも仲間入りをしました。5月28日(水)に学生と教職員の合計25名が携わり、植え付けました。参加者は2班に分かれ、1班は土づくりを、もう1班はゴーヤが成長するにしたがって支えとなるネットを組み立て、設置しました。昨年使用した土と今年購入した



土や肥料等を混ぜ合わせ、プランター67個に土を入れました。その後、主に学生の手によって、ゴーヤとアサガオの苗が植えられました。初夏の日差しを浴びて、すくすく成長する姿を楽しみにしててください。

海岸清掃エコバスツアー

准教授 菅 正史(エコキャンパス推進委員会委員長)

2014年5月11日(日)、本学の19名の学生とともに、長門市油谷の大浦海岸で開催された海岸清掃ボランティアに参加しました。致景の広がる大浦海岸では、国内外から大量に漂着するゴミが問題となっています。漂着ゴミの量と、大小の石が散乱する足場の悪さのため、地元の方々による清掃活動には限界があります。今回の清掃活動には約800人が参加し、バケツリレー方式でゴミを運ぶことで、約5.1トンのゴミを回収することができました。

今回の海岸清掃ボランティア活動には、県内12大学が加盟する山口県エコキャンパス取組促進協議会として協力し、県内各地の大学から計116名が参加しました。協議会が行ったアンケートでは、海岸清掃への貢献による達成感や、地元の方々との交流などの学生の感想が記入されており、参加した学生にとっても貴重な経験となったと考えます。



2014年度 入学者 選抜実施状況

学科	入試種別		定員	志願者	受験者	合格者	実質倍率	入学者	
経済学科	推薦	全国	27	63	63	29	2.2	28	
		地域	A	29	41	41	30	1.4	30
			B						
	一般選抜	前期	52	186	176	79	2.2	59	
		中期	83	1,184	487	317	1.5	108	
	帰国子女		2	0	-	-	-	-	
	社会人		2	0	-	-	-	-	
	外国人留学生		若干名	20	19	7	2.7	6	
第3年次編入学		8	25	20	9	2.2	9		
国際商学科	推薦	全国	27	44	44	31	1.4	31	
		地域	A	29	36	36	29	1.2	29
			B						
	一般選抜	前期	52	192	175	85	2.1	67	
		中期	83	1,089	465	296	1.6	114	
	帰国子女		2	0	-	-	-	-	
	社会人		2	2	2	2	1.0	2	
	外国人留学生		若干名	31	31	12	2.6	5	
第3年次編入学		8	23	21	13	1.6	10		
公共マネジメント学科	推薦	全国	7	14	14	9	1.6	9	
		地域	B	8	9	9	8	1.1	8
	一般選抜	前期	16	331	307	38	8.1	23	
		中期	27	1,265	593	120	4.9	34	
	帰国子女		1	0	-	-	-	-	
	社会人		1	0	-	-	-	-	
	外国人留学生		若干名	0	-	-	-	-	
第3年次編入学		4	7	6	4	1.5	3		

2014年度合格者出身校

北海道	札幌月寒、札幌稲雲、函館、函館ラ・サール
岩手県	盛岡第一
宮城県	クラーク記念国際
茨城県	水城
栃木県	真岡、宇都宮北、鹿沼東
神奈川県	桐蔭学園
富山県	八尾、水橋、南砺、福野、高岡第一
石川県	鶴来、野々市明倫
福井県	三国、美方、若狭
山梨県	韮崎
長野県	飯山北、須坂、伊那北、飯田
岐阜県	大垣南、大垣東、中津、各務原西、美濃加茂
静岡県	伊東、清水南、袋井、沼津市立沼津、静岡市立、科学技術、静岡北、浜松学院
愛知県	丹羽、横須賀、刈谷北、西尾東、岩津、東海南、豊田北、豊田南、美和、岡崎西、愛知、中京大学附属中京、桜花学園、愛知啓成、春日丘、清林館、豊川
三重県	桑名、四日市南、亀山、津東、宇治山田、伊勢、尾鷲、川越、暁、皇學館
滋賀県	八日市、守山、米原
京都府	京都教育大学附属、桂、峰山、西城陽、鳥羽、菟道、京都外大西、花園、東山、洛南、京都橘、福知山成美
大阪府	泉陽、三国丘、開明、興國、大阪偕星学園、桃山学院、上宮、浪速、箕面自由学園、近畿大学附属、追手門学院、初芝富田林、大阪学芸中等教育
兵庫県	夢野台、星陵、北須磨、西宮（県立）、鳴尾、西宮北、伊丹北、川西緑台、柏原、明石、明石西、加古川東、西脇、北条、三木、姫路東、姫路西、姫路南、龍野、山崎、浜坂、相生、葺合、伊丹（市立）、姫路、須磨東、高砂南、宝塚北、姫路飾西、兵庫県立大学附属、三田祥雲館、滝川、須磨学園、白陵、近畿大学附属豊岡
奈良県	生駒、橿原学院、智辯学園
和歌山県	向陽、桐蔭、耐久、日高、開智、和歌山信愛、近畿大学附属新宮、近畿大学附属和歌山
鳥取県	鳥取東、鳥取西、倉吉東、倉吉西、米子東、米子西、鳥取中央育英、米子白鳳、鳥取城北、米子北、湯梨浜
島根県	安来、松江北、松江南、大東、三刀屋、平田、出雲、浜田、益田、松江東、出雲西

岡山県	岡山朝日、岡山操山、岡山大安寺、岡山芳泉、倉敷青陵、倉敷南、津山、津山東、玉島（県立）、笠岡、西大寺、井原、総社、新見、瀬戸、林野、岡山一宮、倉敷古城池、玉野光南、総社南、岡山城東、明誠学院、岡山理科大学附属、倉敷翠松、岡山学芸館、岡山
広島県	広島大学附属、広島大学附属福山、広島観音、広島国泰寺、広島皆実、海田、廿日市、賀茂、加計、五日市、安古市、広尾道東、尾道北、尾道商業、三原、世羅、福山誠之館、福山華陽、府中、油木、大門、三次、舟入、基町、呉、福山、高陽、広島井口、神辺旭、祇園北、沼田、安芸南、美鈴が丘、広島、崇徳、広陵、広島女学院、広島国際学院、広島新庄、福山曉の星女子、銀河学院、近畿大学附属広島（東広島校）
山口県	岩国、高森、下松、徳山、防府、防府商業、山口、山口中央、宇部、宇部商業、小野田、厚狹、田部、西市、豊浦、長府、下関西、下関南、下関中央工業、下関工業、豊北、萩、下関商業、新南陽、響、西京、下関中等教育、高川学園、野田学園、慶進、早鞆、下関短期大学付属、立修館高等専修学校
徳島県	城東、城南、城北、川島、阿波、脇町、池田
香川県	三本松、高松、高松商業、坂出、丸亀城西、観音寺第一、高松第一、高松西、香川中央、高松桜井、三木、英明、香川県大手前高松、香川県大手前、香川県藤井、香川誠陵
愛媛県	川之江、西条、今治西、今治北、松山東、松山南、松山北、松山商業、大洲、宇和、宇和島東、伊予、松山中央、松山西中等教育、済美、済美平成中等教育
高知県	高知追手前、高知西、土佐、土佐女子
福岡県	育徳館、京都、小倉南、小倉商業、小倉、小倉西、戸畑、八幡、八幡中央、八幡南、宗像、新宮、香椎、福岡中央、筑紫中央、筑紫、糸島、久留米、伝習館、山門、三池、八女、朝倉、田川、東鷹、嘉徳、鞍手、北九州市立、福翔、久留米商業、北筑、小倉東、中間、武蔵台、筑前、香住丘、青豊、輝翔館中等教育、門司大翔館、門司学園、敬愛、常磐、明治学園、九州国際大学付属、近畿大学附属福岡、福岡大学附属大濠、福岡大学附属若葉、精華女子、筑陽学園、九州産業大学付属九州産業、沖学園、福岡工業大学附属城東、福岡舞鶴、祐誠、自由ヶ丘
佐賀県	佐賀北、唐津東、伊万里、小城、武雄、鹿島、鳥栖、三養基、神埼、白石
長崎県	長崎東、長崎西、長崎南、長崎北、佐世保南、佐世保北、佐世保西、大村、諫早、島原、松浦、五島、壱岐、長崎北陽台、西陵、海星、長崎南山、長崎日本大学
熊本県	第二、玉名、鹿本、八代、水俣、人吉、八代南、湧心館、熊本北、九州学院、熊本マリスト学園、文徳
大分県	杵築、別府鶴見丘、別府青山、大分舞鶴、大分雄城台、由布、大分鶴崎、臼杵、佐伯鶴城、竹田、森、日田、中津南、中津北、大分南、大分豊府、宇佐、大分東明
宮崎県	日向、高鍋、宮崎西、日南、都城泉ヶ丘、都城商業、小林、宮崎北、延岡星雲、宮崎第一
鹿児島県	甲南、鹿児島中央、鹿児島南、加世田、川辺、伊集院、川内、出水、加治木、志布志、鹿屋、大島、鹿児島玉龍、武岡台、樟南、鹿児島情報、ラ・サール、鹿児島修学館
沖縄県	開邦、球陽、向陽、那覇国際、沖縄尚学

留学生歓迎会を終えて

国際交流会ともだち部長 国際商学科3年 長尾 蛍 (門司学園高等学校出身)

4月25日(金)国際交流会ともだちが主催して留学生歓迎会を開催しました。当日は、たくさんの留学生と来賓の方々や教職員の方々と、私たち部員が共に歓談し、交流を楽しみました。また、よさこいサークルに演舞を披露してもらい、会場を盛り上げてもらいました。留学生にも日本の文化を知ってもらう良い機会になったと思います。

今年は留学生にも国際交流会ともだちサークルに入学してもらうことによって、今まで以上に部員と留学生が仲良くなれる機会を増やそうと考えています。私たちは留学生のサポートの他、留学生がたくさんの思い出を作って母国に帰れるようこれからも活動に励みたいと思います。



美味しい日本酒を味わいながら、知識を身につけるのは最高だと思います。そういう経験は学校では習得できないので、次回からはみんなで一緒に参加しましょう、そして私と一緒に『日本酒マイスター』を目指しましょう。



安徳帝正装参拝

国際商学科3年 チャン ティ キム オアン (ベトナム クアンチ省出身)

5月2日(金)、赤間神宮で行われた「安徳帝正装参拝」に参加させていただきました。一度着てみたかった日本の伝統衣装である着物を着て、安徳帝の行列に並び献花しました。日本、下関の歴史についてあまり詳しくない私たち留学生にとって、このイベントは日本の文化や歴史を学ぶ大きなチャンスとなりました。下関の観光名所である赤間神宮で行われたため、多くの観光客の方々がこのイベントに訪れており、少し緊張しましたが楽しかったです。このようなイベントは、留学生と地域の文化、歴史を繋ぐ大切な絆だと思います。

私はもう3年生なので、これから就職活動や卒業論文などが忙しくなり、このような国際交流活動に参加できる機会が少なくなるかもしれませんが、下関市立大学に在学している間にできるだけ多くの方々と交流を深めるような地域活動に参加していきたいと思っています。



下関探検と防災を学ぶミニツアーに参加して

公共マネジメント学科4年 成見 宏太朗 (宮崎県立小林高等学校出身)

4月5日(土)に開催された下関探検ツアーは、下関に来たばかりの新入留学生に下関市を知ってもらうこと、留学生チューターとの交流を深めてもらうことを目的として開催されました。

今年の下関探検ツアーの内容は、JRや路線バスの乗車体験、入国管理局や税務署等の場所の確認、火消鯨での防災体験でした。火消鯨では、消火体験や煙避難体験をしました。下関市の消防や防災に対する取り組みを知ることができ、新入留学生だけでなく留学生チューターも一緒に学ぶことができました。

下関探検ツアーの道中では、写真を撮ったり、留学生チューターに質問したりする新入留学生が多くいました。見るもの聞くものすべてが新鮮な下関探検ツアーは新入留学生の好奇心を刺激したと思います。今後新入留学生には、日本の文化などいろいろなことを学んでほしいと思います。そして留学生チューター活動がその助けになればと思います。



和装をして、日本の文化を体験しよう

国際商学科1年 胡 文杰 (中国 安徽省出身)

1800年の歴史あふれる城下町長府の「彩りの城下町長府コレクション」に参加しました。そして色々な国々から来た留学生たちと一緒に侍衣装を身につけながら、日本という国の独特の伝統的な文化や歴史の一端に触れることが出来ました。質素な生活の中の武士道、忠孝、礼節等同じ儒教でありながら、全く違う武士の精神の中に日本を見た思いがしました。

大河ドラマの侍は個性的な髪型と袴、刀を腰に差し威風堂々な姿で、なんとかっこいいのだろうと思っていました。実際に体験してみると思ったとおりに気持ちが引き締まる思いでした。

私たちはこの歴史ある長府の毛利邸や武家屋敷を侍姿で歩いたり、高杉晋作という明治時代の偉人の話をしたりしながら、日本人の、伝統的なものを大事にするだけでなくそれを受け継いで、さらに人々に知ってもらうという努力に、心底感心しました。この和装体験は留学生にとって大いに日本を知るきっかけになりました。



心のこもった日本酒

経済学科1年 呉 斌仁 (中国 青海省出身)

下関酒蔵で日本酒と日本文化に関する講座を受けました。そこで日本酒造りの沿革だけではなく、日本酒職人の製品に磨きをかける精神にも驚かされました。日本酒の原料は米と水ですが、人々に忘れられない美味しさが印象づけられます。「それは酒造りの技術が優れているうえ、日本人の『克己心』が日本酒にこもっているからです。」と内田社長がおっしゃっておられました。

日本酒について学びながら、他国の留学生との交流も楽しめました。日本酒と母国の文化の違いだけではなく、各国とも特色のある酒文化があります。日本と中国の文化は昔から重なる部分がありますから、今回の活動を通じて、より深く日本文化を理解できました。

下関ユースカレッジ2014を開校します

生まれ育ったふるさと下関のことをもっと学びませんか。中学生、高校生を対象に下関市と下関市立大学が共同で8月18日から20日まで「下関ユースカレッジ(中学生夏期大学)」を開校します。

『郷土について学ぼう』をテーマに、下関の歴史や産業、貿易、食育(郷土の味)について学び、現地見学として下関の企業や公共施設の見学も行います。また、大学生との座談会も開催されるため、この機会にキャンパスライフについて色々と聞いてみましょう!

※対象は下関市内在住・在学の中学生・高校生です。

詳細はHPをご覧ください。



行事記録(平成26年3月～6月)

- 3月 6日 一般選抜(前期日程)合格発表
- 8日 一般選抜(中期日程)
- 15日 大学院選抜(2次)
- 16日 第5回ふく資料室フグシンポジウム
- 21日 一般選抜(中期日程)・大学院(2次)合格発表
- 22日 第5回国際共同研究シンポジウム
- 25日 卒業式
- 4月 3日 新入生プレイズメントテスト
新入留学生オリエンテーション(環境みらい館)
在学生オリエンテーション
- 4日 入学式
大学院新入生オリエンテーション
- 5日 新入留学生市内探検と防災体験ツアー
- 6日 公共マネジメント学科新入生研修(～7日)
- 7日 新入生オリエンテーション(～8日)
健康診断(～11日)
- 9日 春学期履修登録開始(～15日)
- 10日 春学期授業開始
- 16日 履修修正(～17日)
- 25日 新入留学生歓迎会
- 5月16日 特待生表彰式
- 24日 第1回酒造りから学ぼう日本文化!
- 6月 1日 開学記念日
- 4日 第1回共創サロン
- 5日 地域共創研究報告会
- 8日 下関未来大学開校式
- 12日 防犯講習会
- 25日 関門地域共同研究成果報告会
- 26日 高校教員対象学内入試説明会
- 28日 下関市立大学テーマ講座

平成26年度予算

(単位:百万円)

	区 分	金 額	
収入	運 営 費 交 付 金	215	
	授 業 料 等	984	
	入 学 金	125	
	入 学 検 定 料 等	58	
	事 業 収 入 等	27	
	寄 附 金	3	
	補 助 金	10	
	目的積立金取崩額	166	
	計	1,588	
支出	一 般 管 理 費	323	
	人 件 費	1,034	
	教 育 経 費	146	
	研 究 経 費	42	
	教育支援経費(図書館)	35	
	補 助 金	8	
		計	1,588

FIND it! 未来の自分を発見。

下関市立大学 オープンキャンパス2014

7/19(土) 8/10(日) 9/27(土)

10:00～(受付9:30～)

参加者全員にオリジナルグッズプレゼント!!
無料ランチ券配布

【全体説明】

- 大学概要: 本学の特色などを紹介します。
- 入試説明: 今年度入試の概況、来年度入試の概要を説明します。
- 就職状況: 就職状況やサポート体制を解説します。

【模擬講義】

本学の教員が、高校生の皆さんに分かりやすく日頃の授業を講義します。

【個別相談】

個別ブースでは、入試や大学生活、就職など、あなたのいろいろな疑問にわかりやすくお答えします。

【語学体験】

初歩的な会話レッスンや海外の研修先の紹介などを行います。

【市大生と語ろう】

大学の授業やサークル活動、普段の生活スタイルのことなど、在学生の生の声が聞けます。

【学内施設ツアー】

在学生とおしゃべりをしながら、学内を散策しましょう。

【学生食堂】無料ランチ

学生食堂で普段学生が食べている、人気メニューが味わえます。

【図書館ツアー】

日頃は目にする事のない閉架書庫にもご案内します。



無料送迎バス運行(7・8月のみ)

最寄駅(JR幡生駅・新下関駅)に専用バスがお出迎えます。
※9月27日はプログラムの内容が少し異なります。詳細はHPをご覧ください。